

# 白石きぼう学園コンセプト 「学校らしくない学校」

「落ち着いて過ごせる居場所」となること、「認めてもらうこと」を実感できる体験活動を充実させること、「個別最適な学び」で意欲と自信がもてるようになること、これらの3点を大切にしていきます。

## 他校とは違う特別な学びのポイント

### 「自分のペース」を最大限尊重

- 登校時間 9:20
- 下校時間 小学校 14:50  
中学校 14:55
- 午前3時間授業、午後2時間授業  
別室や図書ブースなどで授業中のクールダウンも認めます。

### 「個別な学び」で基礎学力の保障

- 「白石タイム」の実施  
小学校2年生以上に週4時間設定（小2は週3時間）の独自に新設した教科の時間です。一人一人の状況に合わせた学習の時間で「学び直し」「苦手内容」に対応していきます。

### 学校内外での豊かな体験活動の機会を確保

- 児童生徒の興味・関心に基づく探究活動  
得意や興味・関心に基づき、自分のテーマにじっくり取り組み得意を伸ばす総合的な学習の時間「夢スタジオ」を週3時間設定します。
- 人との関わりを重視した活動の導入  
・「探究の対話（p4c）」を導入します。  
・「食」を主とした地域との交流による活動を実施していきます。
- 校外体験学習の導入  
児童生徒自らが計画し実施する体験活動、地域や企業、協力団体などとの協働的な体験活動を実施していきます。

あるがままのあなたを受け入れて、一人一人に応じたケアを行い、個人のペースを大切にしたい学びとしていきます。



# 新たな学びの場「白石きぼう学園」開校

学校管理課 ☎ 22-1342

本市は4月に小中一貫の不登校特例校「白石市立白石南小学校・白石南中学校（通称『白石きぼう学園』）」を旧南中学校の校舎を活用し開校します。小中一貫校としては東北初、全国でも3例目の学校に、市内だけではなく他県・他市町村からも入学に関する問い合わせを多くいただいています。

## 文部科学省指定の不登校特例校が開校！

近年、全国的に不登校の児童生徒は増加傾向にあります。本市でも同様に増加傾向にあり教育課題の一つと捉えています。これまでも児童生徒の多様な学び・不登校児童生徒に対する支援として、白石市教育支援センター「白石市子ども心のケアハウス」や仙南けやき教室、学び支援教室などの整備・充実を進め、不登校の児童生徒一人一人の状況に寄り添う支援体制をとってきました。しかし、そのことを望む児童生徒がいる一方、これまで通ってきた学校・学校のシステムには馴染めず、新たな学びの環境を望む児童生徒もいます。「個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援が行われるようにすること」が一層重要視され、より多様な支援の在り方が求められています。このような現

### 転入学予定保護者の声

- 今の自分と向き合いながら安心できる場所になることを期待しています。本人らしさを取り戻し、自分のペースで楽しい学校生活を過ごせたらと願っていました。
- 不登校特例校について子どもに説明すると「行ってみる」と前向きでした。プレオープンスクールなどを通し「行きたい」という意欲に変わりました。人との関わりや経験が多くできることに魅力を感じます。



状を踏まえ、また、不登校を問題行動として捉えず、一人でも多くの児童生徒に適した柔軟な対応を展開していくことを目指し、学びの場の選択肢の一つとして新たに開校します。

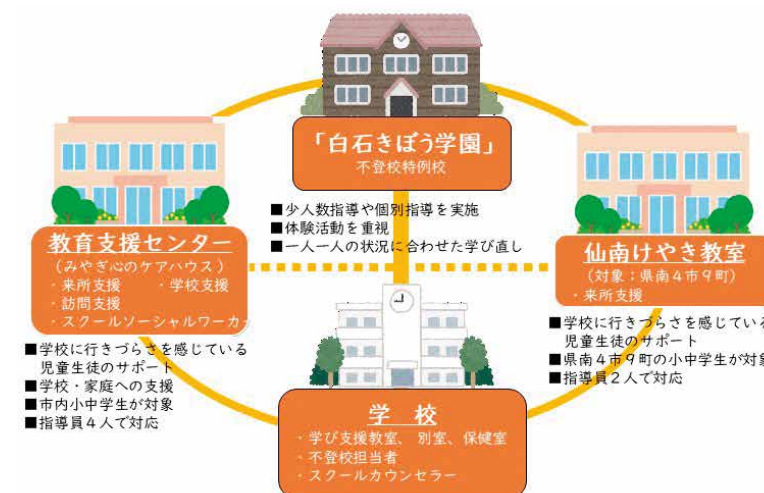
## 学校らしくない学校

白石きぼう学園のコンセプトは「学校らしくない学校」です。特別な教育課程を編成し、少人数や個別の形態で学びを進めていきます。特別な学びとして、一人一人の学習状況に合わせて、「学び直し」や「苦手内容」に対応していく「白石タイム」を新設します。また、体験活動を重視し、興味・関心に基づく探究活動や、地域や企業などとの協働的な学びを展開するなど、人との関わりを大切に活動を通して、児童生徒の自己肯定感・効

力感を高め、「学力の保証」「社会的自立」に結び付けていくことを目指しています。

## 白石市の教育サポート

多くの人と接するのが苦手、学校に行きづらいなど、子どもたちの悩みはさまざまです。本市では、それぞれの状況に適した教育相談を行うため、各施設・機関に専門スタッフを配置しています。



## ■対象となる児童生徒

- ① 本市在住の小学校1年から中学校3年までの児童生徒であること。
- ② 病気や経済的な理由を除き、年間30日以上欠席、または保健室や相談室、けやき教室や白石市教育支援センターなどに通っており、現在もその状態が続いていること。
- ③ 転入学前から白石市教育支援センター（白石市子ども心のケアハウス）へ継続的に相談していること。
- ④ 児童生徒に本校へ登校しようとする意欲、興味・関心があり、保護者の理解も確認できること。
- ⑤ ①～④を満たしている児童生徒のうち、教育委員会が認める者。

## ■白石きぼう学園に関するQ&A

- Q1 白石市教育支援センター（白石市子ども心のケアハウス）との違いはどこですか？  
 A1 教育支援センターは、不登校児童生徒の学習活動に対する支援を行う教育施設です。大きな違いは、白石きぼう学園は学校であり、国の認可を受けた教育課程に基づき教育活動を行います。
- Q2 制服・運動着など指定の物を準備する必要はありますか？  
 A2 特に指定する制服や運動着、上靴はありません。新しく準備する指定のものは必要ありません。
- Q3 通学方法はどうすればよいのですか？  
 A3 登校時はスクールバスを予定しています。下校時は、市民バス（無料）を利用して下校します。
- Q4 学校行事や部活動はありますか？  
 A4 学校行事は入学式と卒業式のみです。ただし、授業では自ら計画する体験活動を積極的に取り入れていきます。部活動は原則行いません（希望者は要相談）。
- Q5 今の学校に籍を置いたまま通学することはできますか？  
 A5 白石きぼう学園は、一つの独立した学校になるので転校の手続きが必要です。